創 刊 の 辞

「人文学紀要」創刊に際して

文学部　学部長　西　尾　宣　明

2022 年 4 月に、追手門学院大学は、国際教養学部国際日本学科を改組し、日本文学、歴史文化、美学・建築文化の 3 専攻を有する文学部人文学科を設置しました。それに伴い、「人文学紀要」が創刊されることになりました。

ところで、本学の文学部人文学科の教育目的は「日本文学・日本語・日本史・日本文化に関する学びを通して、高い理解力と思考力を身に付け、専門的知識を活用して思考・行動ができるとともに、創造的に問題解決を図り、新しい文化や時代を創出することができる人材を養成する」ことにあります。日本・言葉・歴史・文化などを学びのキーワードとして掲げていますが、それはそのまま、本学科における研究内容に直結するものでもあります。

このような本学人文学科の学的領域は、これまでの人文学を超えた二つの特色を有しています。

一つめは、その領域の幅広さです。日本文学専攻では、古代から近代までの物語、詩歌、小説といった文学や語彙、文法などの語学だけではなく、アニメやドラマ、映画などの画像・映像作品も研究対象としています。歴史文化専攻では、古代から近代までの日本史はもちろんのこと、アジア圏をはじめ外国との関係を視野とする日本のあり方や、ポップカルチャーなどの現代日本文化についての調査・研究も対象としています。アニメやドラマ、映画またポップカルチャーなどは、従来は主として社会学の研究領域とされてきたものです。本学科では、これらを人文学の立場から、調査・研究をおこないます。これは、人文学が対象とする文化は、固定的一元的なものではなく、時代とともにその表象を生成変化させていく多様性を本質とするものであるという、私たちの学科の構成員が共有する考えに基づいているからだと思います。

二つめは、文理融合型の美学・建築文化専攻が設置されたことです。ここで

も、従来の工学的視点からの建築学にとらわれず、人文学的な視点による建築学を追求します。こちらも、日本古来の建築技術や様式美から、現代の先進的な空間デザイン、建築設計まで、幅広い領域を対象としています。そして、空間デザインや建造物と、人間との関係性を考察・研究することを重視しています。

本学科設置にあたって、3 専攻には、それぞれすぐれた研究業績をもつ専門性の高い先生方に着任していただくことができました。もちろん、それらの先生方は、専門分野の学会誌等に論文を投稿し、その研究をさらに進展されることと思います。

一方で、大学の研究紀要は学会誌と同様に大学での研究成果を示すものでもありますが、もう一つの良さは、専門の学会誌と異なり、自由な形式や発想での先生方の研究成果の発表の場としての役割をもつことだと思います。

研究紀要に関する私のつたない体験を記します。私の専門分野は大正・昭和期の小説の研究で、最近は、特に「第三の新人」の文芸史的意義を中心的視座に、島尾敏雄や庄野潤三などの文芸的活動や小説作品の考察をおこなっています。一方で、2000 年代以降の新しい作家たちの作品分析もおこなっており、論文（らしき試論）も発表したこともあります。後者は、十分に研究分野としては確立したものではなく、学会誌などへの投稿はまだまだ不可能で、私の論考の発表誌は前任校の研究紀要でした。しかし、それらは、学生たちへの講義の元にもなり、現在日本で生成されつつある新たな文芸作品への視点やアプローチの方法を私に示唆してもくれました。

掲載される論考の領域・テーマ・方法などはそれぞれの研究者によって異なっていても、本学における人文学のあり方を示す場として、そして執筆した先生方の多様な研究成果の発表の場として、「人文学紀要」が大きな役割を果たすものであると確信します。さらに執筆者の先生方の、自由な発想による、学的意識の深まりや学的視野の広がりを形成する場（ひいては、それが学生たちとのよりよい学的交流への指針を示すもの）となることを願います。

最後となりましたが、水谷隆教授、村口進介准教授のお二人には編集担当としてご尽力いただきました。記して感謝申し上げ、追手門学院大学文学部「人文学紀要」創刊の辞といたします。